

入 試 年度	2026 年度	入 試 時 期	Ⅱ 期 入 学 試 験	実 施 日	2026 年 2 月 24 日
課 程	博士前期課程	研 究 科	文学研究科	専 攻 ・ コ ー ス	演劇学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試 験 科 目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
〔Ⅰ〕					
近松門左衛門作の浄瑠璃『女殺油地獄』は、油商河内屋の息子与兵衛が放蕩にふけて借金返済に行き詰まり、同業の豊島屋女房お吉を惨殺して金を奪い捕縛されるまでを描く。中の巻では、河内屋の先代主人の没後に番頭の当代徳兵衛が跡目を継いだ経緯が語られ、それに不満をもつ与兵衛の非行と、そのために家族が崩壊寸前の状況を迎えているという複雑な家庭事情が描かれる。また上の巻ではお吉の与兵衛に対する親切が、下の巻では豊島屋一家の睦まじい日常と、河内屋夫婦とお吉との会話を与兵衛が立ち聞きする場面が描かれ、各々の家庭の対照と、与兵衛が殺人に至る背景の一端が示される。これらはいずれも主人公である与兵衛を取り巻く環境をつぶさに示して劇的效果を挙げている。 ここでは河内屋という「家」を守ろうとして、それを形作ってきた血縁の中に当代徳兵衛という他者が加わったことによって「家」の均衡が崩れ、それが与兵衛の非行を生み出す要因となったことにより、他家である豊島屋への暴力的侵犯・破壊が発生してしまうという構図が見て取れる。本作は従来与兵衛の性格や犯行の動機を中心に論じられてきたが、与兵衛を抑圧する「家」や「家族」の論理を詳細に描くことによって劇的構成に成功している点も重要であると考えられる。					
〔Ⅱ〕					
歌舞伎の「型」は場割（場面構成）や脚本から扮装・大道具等の演出に至るまで、上演の形式・様式を幅広く指す概念であるが、上演に際してどの型を採用するかによって、同一の戯曲でも表現効果や観客に与える印象は時に大きく異なる。 例えば「熊谷陣屋」では、明治期に九代目市川団十郎が創案した団十郎型がそれ以降の上演の主流になっているが、より歴史的に古い型として四代目中村芝翫による芝翫型が存在する。両者の間には主人公熊谷次郎直実の化粧・衣裳、見得の形、演技の手順等に相違が見られるが、芝翫型は概して人形浄瑠璃の大様素朴な感触に近い演出で、熊谷の豪放さや荒々しさが強調され、この身代わり劇自体の意外性と壮大な悲劇性が前面に現れる効果がある。一方団十郎型では、写実的な近代劇を志向した団十郎の個性を反映して、熊谷という個人の内面的な苦悩や悲嘆の抑制的表現が重視される。このように歌舞伎においては、戯曲をどの型によって上演するかという選択が、戯曲に対する演者の解釈を極めて直接的に表現することにつながっている。					

【出題の意図】

演劇史・演劇学に関する基礎的な知識と問題意識を問うとともに、論理的な文章表現の能力を問う。地域、年代、ジャンルなどについて多様な関心をもつ受験者を想定し、各自の関心のある分野から具体的な題材を選んで論述できるよう配慮する。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。